

# 「みんなのお風呂」

～入浴の疑問点と困り事、  
自立を促す福祉用具～

前田介護相談所 福祉用具 中村 友洋

潤生園やすらぎの家和田河原 小池 正恵

潤生園 みんなの家 南足柄 杉山 美紀

## 入浴の効果

- ・ 身体の清潔保持
- ・ 温まることにより血行促進  
筋肉が柔らかくなり、痛みの緩和
- ・ 新陳代謝による身体の活性化  
～湯船の中でリラックスすることで、気分転換ができたり、  
気持ち明るくなったりするものです～



その他に、

- ・ 施設での入浴練習⇒怖さが無くなる
- ・ ご利用者と一対一で話ができる
- ・ まだまだいろいろあります

# 浴室訪問

- ・ やすらぎの家和田河原のお風呂
- ・ みんなの家南足柄のお風呂

## ～施設での入浴を考える～

- ・ 訪問介護・・・ご利用者の自宅で行う入浴介助（**自宅でのお風呂**）
- ・ 通所・・・事業所の浴室にて入浴介助  
（自宅でお風呂に入るための**機能訓練の場**でもある）
- ・ 認知症対応・・・通所と同じ
- ・ 小多機・・・事業所の浴室にて入浴介助  
（**自宅のお風呂**、と**機能訓練の場**と区別していない）
- ・ 特養・・・**事業所の浴室 = 自宅のお風呂**にて入浴介助

デイサービスの入浴加算が改定になりました。

今まで 50単位 ⇒ 40単位と55単位に

内訳) 40単位・・・入浴介助加算 Ⅰ  
50単位・・・入浴介助加算 Ⅱ

ますます自宅で入浴できるように自立を支援する介助への要求が強まってきているようです

入浴に関して、常々疑問に感じながらもなんとなく業務を続けているってことはありませんか？

## 入浴の疑問①

血圧や体温って入浴とどう関係するの？

体温：37.5度↑

36.0~36.9°C

血圧：160↑/100↑

101~129/60~84

が平常とすると

- ・ 入浴前の収縮期血圧160以上…事故発生のリスクは**3倍**以上  
180以上になると**4倍**以上に
- ・ 拡張期血圧100以上…61~84の場合と比較して  
リスクが**15倍**へと急上昇！
- ・ 入浴前体温37.5°C以上…リスクは**16倍**（36.0~36.9°Cの  
ケースと比較）

「通常より血圧が高い、発熱している時の入浴は  
避けるべき」

注意) その人その人で条件は違います。疑問に感じたら  
かかりつけ医に相談しましょう



## 入浴の疑問点②

ところで、湯船の温度って何度が適切？

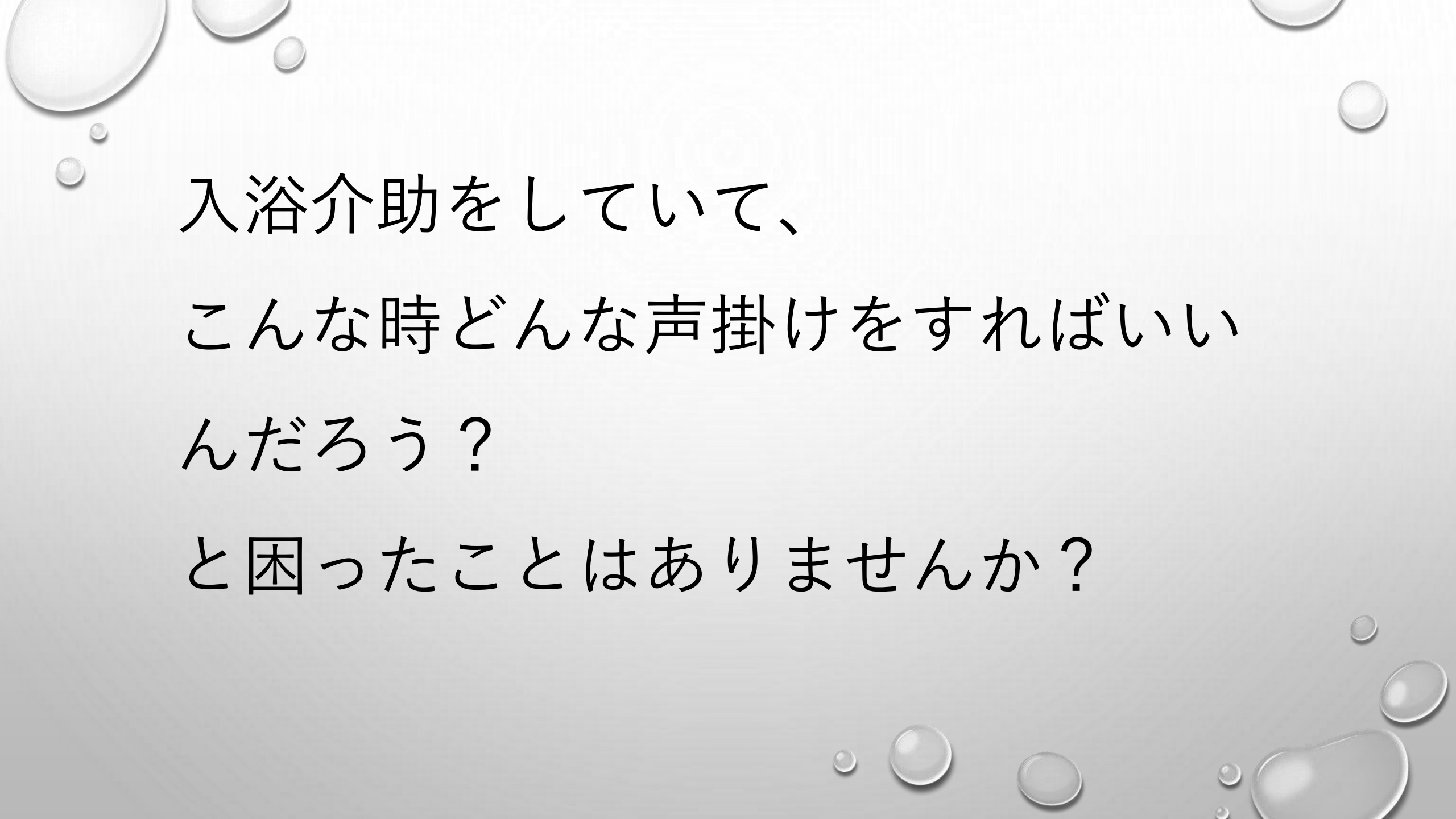
38～40度？

42度～？

## 考え方によるのでは？

- ・ 自宅のお風呂・・・38度～40度が理想？  
（リラックスするのに最適な温度）
- ・ デイサービスのお風呂・・・その人その人に  
会った温度が望まれる（自立支援だから）
- ・ 42度・・・昔の銭湯の温度  
（殺菌（性病菌、水虫菌）の為だったようです）
- ・ 42度・・・自律神経の境界線  
副交感神経優位←42度→交感神経優位

入浴の温度によって、どんな効果を期待するか、まで考えながら入浴介助を行うことができれば、今までよりレベルアップした入浴介助が期待できるのでは？



入浴介助をしていて、  
こんな時どんな声掛けをすればいい  
んだらう？  
と困ったことはありませんか？

## 二つの事例を紹介

- 湯舟につかれない方への声掛け
- 湯舟からなかなか上がって下さらない方への声掛け

# 事例 1

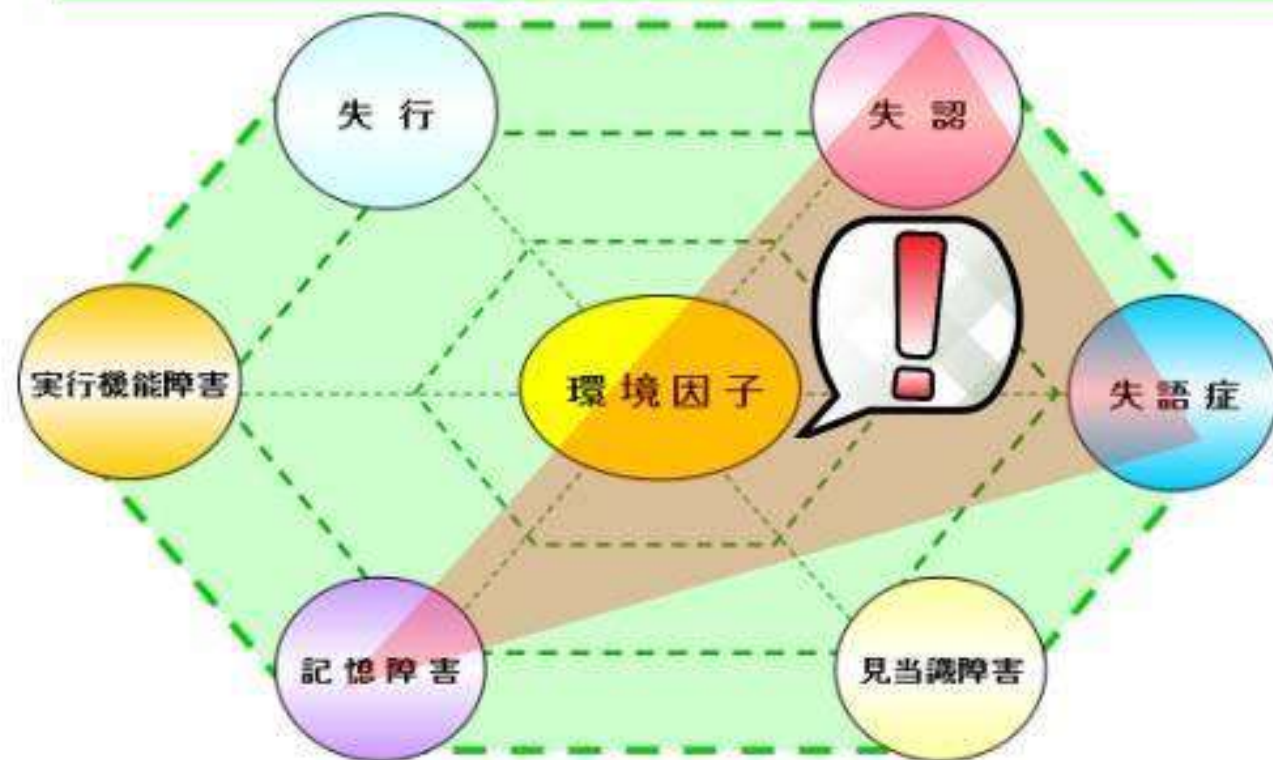
湯船につかって温まるのが好きだった方が、認知症の進行とともに湯船につかって温まることができなくなってしまいました。

「お風呂だよ！あったかいよ！」などと声掛けしますが、効果なし。湯船と一緒に入って腰を落とす仕草をすると、真似はしますがしっかり腰を落とすことはできません。低い台を置いて「ここに座りましょう」と声掛けしてもダメです。たまに調子よく、湯船に浸かることができると、とてもうれしそうで、心身ともにリラックスし、今にも泳ぎだしそうです。そんな嬉しそうな姿を見ると、「湯船で温めてあげたい！」と思うのです。

Q：湯船につかれない方への声掛け

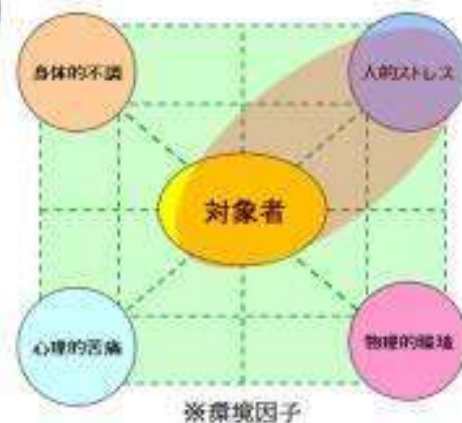
A：お風呂の認知を入れ、手続き記憶を活用することで湯船につかれる回数は変化すると考えます。

# 行動・心理症状(BPSD)派生スケール



## ☆環境因子

※介護職員  
(人的ストレス)



## ケア・ポイント!

お風呂の認知が、即時記憶障害により消失しないことが重要になります。お風呂の認知が残っていれば、**簡単な言葉と視覚からの認知で手続き記憶のスイッチが入ると考えます。**



## 事例 2

やはり認知症の方です。入浴拒否があり、声掛けによりやっとのことで入浴、湯船にると、今度は出てくたさいません。

「あんまり長湯をすると湯あたりするからそろそろ出ましよう！」や、「ひっくり返るとレスキューのお兄さんに頼まなきゃいけないからそろそろ出ましよう」などと声を掛けますが、一向に立ち上がっていただけません。仕方なく追い炊きを繰り返すことに・・・

どのような声掛け、アプローチが必要でしょうか？

Q：湯船につかるとなかなか出てくたさらない方がいます。納得して出ていただけの良いい声掛けはありますか？

A：環境と考え、声掛けの内容をこえるだけで出る確率は変化すると考えます。

# 行動・心理症状(BPSD)派生スケール



## ☆環境因子

※介護職員  
(人的ストレス)



## ケア・ポイント!

全ての中核症状から湯船から出る理由が納得できないことに気づいてください。大切なことは湯船から出る支援ではなく、**移動する支援と視点を変えることで声かけの内容は変わると考えます。**

普段行っている入浴介助ですが、  
疑問点を掘り下げてみたり、多職種に意  
見を聞いてみると今まで見えなかったも  
の、気が付かなかったこと、知らなかつ  
たことがたくさんあることに気づきます。  
へー！っと思っただけのこと一つ  
でもあれば幸いです。

# 福祉用具

今回の研修では…

日常生活動作の中の



入浴 に関わる福祉用具に着目

あ) 入浴に伴う補助用具

い) 浴室環境整備に伴う住宅改修

# 介護保険における福祉用具（定義）

介護保険の福祉用具は、要介護者等の日常生活の便宜を図るための用具及び要介護者等の機能訓練のための用具であって、利用者がその居宅において自立した日常生活を営むことができるよう助けるものについて、保険給付の対象としている。



困難な動作を補う

本人及び介護者の負担を軽減する

残存能力を最大限に発揮する

自立を促しその人なりの可能性を広げる！

## あ) 入浴に伴う補助用具



# 【特定福祉用具購入対象商品】 = 介護保険で 購入できる物

- ・ レンタルになじまない性質の物  
（再利用することには心理的抵抗感が強い物）  
（形態品質が変化し最利用できない物）
- ・ 購入費の支給を求める時は、市町村窓口申請書を提出  
→市町村が日常生活の自立を助けるために必要と認めた場合  
償還払いで支給
- ・ 支給額は、負担割合で変わり実際の購入費の7割～9割相当
- ・ 支給限度額10万円の7～9割が上限  
（4月～翌年3月までの同一年度で10万円）

# 【特定福祉用具購入対象外商品】

- ①入浴用の椅子
- ②浴槽内椅子（浴槽内に置いて利用できる）
- ③浴槽用手すり（浴槽の縁を挟み込んで固定することができる物）
- ④入浴台（浴槽の縁にかけて浴槽への出入りを容易にできる物）
- ⑤浴室内すのこ（浴室内に置いて浴室の床の段差の解消を図る物）
- ⑥浴槽内すのこ（浴槽の中には置いて浴槽の底面の高さを補う物）
- ⑦入浴介助用ベルト（介護者の体に巻きつけて介助軽減になる物）
- ⑧簡易浴槽
- ⑨移動用リフト  
のつり具



【特定福祉用具購入対象外商品】  
= 自費で購入する物

滑り止めマット など



い) 浴室環境整備に伴う住宅改修

## 【介護保険の対象となる範囲】

- ・ 安全性向上のための住宅改修（新築・増築は対象外）
- ・ 住宅改修費の支給限度額は同一住宅同一対象者で合計20万円の7～9割が上限
- ・ 転居した場合は改めて住宅改修費の支給を受けることが可能
- ・ 例外として、要介護状態が著しく重くなった場合は改めて支給を受けることが可能









# 福祉用具または住宅改修導入時には

- \* 福祉用具専門相談員に相談する
- \* 普段どのような動作運動をしているかを基に、身体の状態や安全性を考慮した専門的な視点を交えて決める
- \* 自分でできることはなるべく減らさないような福祉用具を選ぶ
- \* 介護する側の負担が軽減されるかチェックする
- \* 住宅改修では同居家族の事も考慮する
- \* 体が覚えている大きな段差（玄関など）は元より小さな段差にも気をつける